

大紀町漁業活性化プロジェクト



実施主体：
大紀町錦漁業組合



私達は12月10日、11日の2日間にかけて、大紀町で錦漁港を中心にフィールドワークを行いました。フィールドワーク前は、正直『三重県南部にある自然豊かな町』という漠然としたイメージしかありませんでした。また、第一次産業を生業にする人々は、きっと厳格で寡黙な方が多いのだろうというイメージがありました。そのため、2日間という短い期間で、私達大学生がどこまで地元の人々と深く関わる事ができるかが課題でした。

2日間で私達は、主に三つの事を学ぶことができました。まずひとつ目は、錦漁港の海の幸の素晴らしさについてです。普段私達が食べている海鮮料理も普通に美味しいと感じていましたが、錦で目から鱗の体験を何度もしました。頂いた海鮮料理は、どれも美味しすぎて笑みが零れるほどでした。その時初めて、私達が普段食している海鮮料理はさほど美味しくないのではと疑いを持ちました。ふたつ目は地元の人々の温かさです。例えば、獲れたての魚をさばいて振舞ってくれた地元の方や、2日間世話をしてくださった民宿の方などです。特に、来る前は勝手なイメージを持っていた猟師の方々も、お仕事中にも関わらず向こうから積極的に私達に接しようとしてくださいました。みっつ目は観光地として溢れる資源が潜在している事です。日本では、食卓に魚料理が並ぶ機会が減っていると言われていています。だからこそ、魚介の本来の美味しさを感じられるサービスは、観光資源になりうるのではないかと考えました。また、平成23年に発生した東日本大震災の影響により、日本は津波に対する恐怖は増しその対策も急がれています。錦地区では巨大地震・津波などの災害対策として、2ヶ所の津波避難タワーが建設されています。私達はその一つを実際に登り、大紀町の命を守る意識を感じることができました。これらの体験を元に、大紀町に溢れる魅力を外へ発信することが、私達のできる大紀町への恩返しだと考えています。

(指導教員:筒井 琢磨)